

たていわの
ゆとり空間は
メルヘン型



ドングリの実のなる木の仲間は、
温帯の落葉樹がナラ、
暖帯の常緑樹をカシと
称しています。落葉の森の
ブナ帯付近のミズナラは
タテ藪の厚い樹皮をつけ
ビアタルの木として有名。
コナラは、里山に多く
暖温帯に広く分布します。

ダイタラポウの詩が聞こえる。

*ダイタラポウは、里言葉でダイタンボウ。大胆坊とも表記されている。この巨人は、隣町の田島でデ
ンボ、会津盆地で手長足長などの名で語り伝えられ、東京杉並区の代田橋はダイタラポウが架けた橋と
か。東日本の伝説の発信拠点は、関東で最も古く拓かれた地域の一つ埼玉東の大宮高鼻の地、武蔵国一
ノ宮、氷川（火の川）？ 神社あたり。友好都市・大宮市と館岩村の交流のゆかりは深い。この巨人
伝説はタラ→ダイタラ→ダイタラ法師と連想させる。タタラ（踏鞴）製鉄炉または足踏みファイゴにま
つわる古代の産鉄文化に由来するともされ、中央アジアの工業地帯・タール地方（Tarl）（猛火の意）の
名が語源ともされる。火山列島日本はニュージールランド、カナダとともに世界三大砂鉄産地。



朝霧に包まれた帝釈山脈の彼方は、車で195km、電車で3時間30分、昼間人口が3000万人。人口密度1万人/km²を超える首都圏の中核都市群。都会の喧騒のただなか。村里が賑やかなる夜間人口密度9.7人/km²の館岩村はまるで別天地です。



山腹や尾根、溪谷に、巨岩がタケノコのように突き出す山村。のどかなメルヘンの世界です。



電腦時代が目指すのは、感動の受発進！キキをたたい『館岩らしさ』を発信するのは、村名発祥にまつわるメルヘンレポートです。

21世紀は、『館岩らしさ』を感じるゆとり空間を創る時代。ココロ重視の自由時間づくりが求められる今こそ、わたくしたちは、村名伝説にまつわるエピソードのほのぼのとした痛快さの中に、ゆとりとうるおいに満ちた心豊かな郷土づくりの英知を学びます。

これは、会津藩が江戸幕府に報告した風土記の立岩郷よもやま採録の一節です。天地創造の神とも伝えられ、火の山の国・日本の古代の民俗の謎を秘めた巨人伝説のぬし・ダイタラポウ。館岩村は大昔、この妖怪の棲みかだったと語り継がれています。ある晩、むくむくと巨岩が出現したのに驚きあわて、プライドを傷つけられて怒ったダイタンボウが、思い切りけとばしたところ、岩の頭がポキリと折れてふっ飛んだという…。この「立岩」が村名の由来。ひどい仕打ちにあった岩が真つ逆さまに落下したのが、5kmほど離れた山腹にそびえ立つ逆岩とか。「立」の表記は、多くの謎に包まれた館（やかた）の意に転じたりします。

立岩―高十五丈周十八丈計屏風をたてたるが如し、村老の口碑に此岩むかし一夜に涌出す、郷名の由て起る所なりと云、多く岩耳を産出す、これを取れば必雨ふるとぞ
逆岩―高八丈周四十二丈餘、相傳て立岩涌出せしとき神ありて是を蹴折り此處に倒置せり故に此名ありと云

